

あいざと便り

電子カルテ等の活用

24時間こころの医療福祉サービスへ

特定医療法人 あいざと会
理事長・藍里病院長 久保一弘

今年の冬は寒くて雪も多く、「地球温暖化」という言葉はもうすっかり忘れておりました。その冬が終わり、春を迎えようとしている頃に起きたのが、「東日本大震災」でした。地震と津波だけでも、こんなにも大きな災害なのに、これに加え、「原発被害」のひどさに驚きと恐怖を覚えています。無責任かも知れませんが、私は、昔は原発は危険だと考えていたのに、いつの間にかすっかり忘れていました。テレビ広告などうまく忘れさせられていた感じがします。

震災前は、我が国の政治状況とアラブ・北アフリカの状況が気になっていました。前者はユーチューブ(you-tube)への、機密情報とされた中国漁船衝突現場映像の投稿・

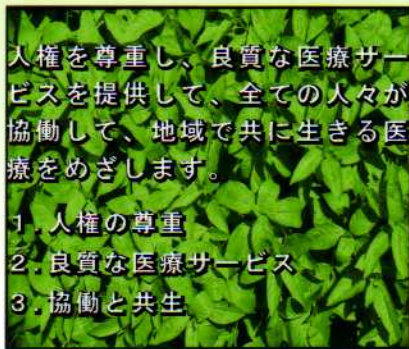
公開による政府批判が、後者は多機能の携帯電話やパソコンによるブログ、ツイッター、フェイスブック等というインターネットの新機能によつて各国民衆の反政権活動が瞬く間に拡がったものでした。また、大学入試会場から質問サイトに入力して回答を得るといった事件も発生しておりました。

事の善悪は別として、これらは正にICT化時代の出来事で、それぞれ情報伝達の問題を示しています。ICT化は、以前は、IT化(Information technology)と言われましたが、情報・インフォメーションに加えてコミュニケーション(communication)の重要性を加えたものだそうです。

精神科領域におけるICT化

さて、病院のICT化は、他の業界よりもやや遅れていると言われています。ことに精神科病院は、病院の規模の割には進展していないようです。精神科・心療内科は、人の言葉が大切で、診療の内容が抽象的で数値化もしにくく、正確に記録するのは手間がかかる診療科です。個人情報保護の課題も大きく、電子カルテの導入も大学病院など大病院でも他科に遅れることが多かったようです。

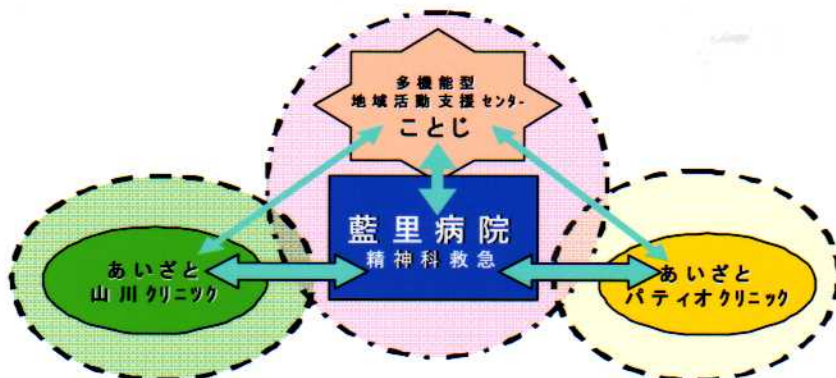
藍里病院の理念



人権を尊重し、良質な医療サービスを提供して、全ての人が協働して、地域で共に生きる医療をめざします。

- 1. 人権の尊重
- 2. 良質な医療サービス
- 3. 協働と共生

時間外等診療にも対応



あいざと3医療機関に電子カルテ
平成21年9月に藍里病院、22年6月と7月にあいざと山川クリニックとあいざとパティオクリニックに電子カルテを導入しました。その他、3ページの図にあるような業務をコンピュータを活用して行えるようにしました。例えば、薬局では、電子カルテに

繋がった全自動分包機によって薬の調剤が行われています。栄養部門においては、病院給食、栄養指導などの業務ソフトが電子カルテと連動しています。レントゲン・CT等の画像、脳波、心電図などが外来や病棟の診察室、医局などで判読できるようになっています。医師の指示、各職種の報告も殆どがメールやカルテ上の情報伝達で行っていて、確実な実行と記録が可能となっています。

3 医療機関の全てのカルテ、病院では開院以来約30年のカルテ・検査結果などを必要部署のパソコンで読めるようにスキヤナーで読み込んでいます。

クリニック受診者にも夜間・休日対応

多くの心療内科・精神科クリニックが平日昼間だけの診療で、休日や夜間になると、電話も掛からないところが多いようです。診療時間外に悪化したり、相談したいことができて、対応されていません。どうしても受診を要する場合は、他の病院に受診することにりますが、診察医には病歴、診断名、処方の内容などが十分分かりません。

藍里病院と2カ所のクリニックには、同じ電子カルテを導入しており、3カ所は相互に高速の専用線で結んでいます。別の場所で電子カルテを読めますし、業務の一部は処理できます。これによって、夜間・休日でも病院でクリニックの受診者への対応がし易くなっています。

このようにして、このシステムの活用で時間外等の診療も充実してきています。

個人情報を守るシステム



山川クリニック



パティオクリニック

もちろん専用線ですから、外部から侵入することはできず、診療記録を見られる心配はありません。また、スタッフにはそれぞれのID番号とパスワードを与えており、電子カルテを利用した人、時間、内容などが記録されるシステムになっていて、不必要な「覗き見」や書き込みなどは処罰対象としておりません。紙カルテの時代よりも個人情報を守ることができるシステムになっています。

精神科医療と福祉が連携・分担して協働

これからの精神科医療・福祉は、地域で生活し続けられることを目標として、生活支援を行う障害福祉サービスと、よい状態を続けるための保健医療サービスを様々な職種（医師、看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、作業療法士、相談支援相談員など）の「多職種チーム」で行っていくこととなります。図のように多機能型地域活動支援センター「ことじ」や生活訓練施設「すくも寮」など福祉部門もコンピュータ・ネットワークに組み込まれています。これが多職種チームの業務用ツールとなると思います。

現在、藍里病院を中心とした地域に約150名の方が医療または福祉のサービスを利用して暮らしています、その人数はどんどん増加しています。今後は、クリニックを中心とする地域でも同様の支援を強化すれば、両サービスを利用して暮らす人が増加していくと思います。

あいざと会としましては、今後も理念と基本方針にそって実現に努力して参りますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



「基本方針」

- 1. 救急・急性期医療の重視
- 2. 退院の促進と地域在宅精神医療の充実
- 3. 入院環境および周辺環境の整備
- 4. 人材育成および教育研修制度の充実
- 5. 地域精神保健医療福祉への貢献
- 6. 利用者中心の医療
- 7. 医療環境の整備—医療安全対策、病院機能評価などへの取り組み
- 8. 迅速かつ適正な対応と情報の提供
- 9. 公益性を重視した健全な経営

特定医療法人あいざと会 の ICT化



あいざと会ーICT化と 今後のシステム構築

事務副部長 日下聖三

特定医療法人あいざと会は、昨年、開院30周年を迎えることができました。この30年間で医事、情報関連の業務も様変わりしてまいりました。

私はまだ入職しておりませんが、藍里病院は、開院当初からレセプトコンピュータを導入していたとのことです。しかし、聞くところによると、今では考えられないことですが、印字はカタカナのいわゆる「レセコン」で、患者さんへの医療費請求は、手書きで会計カードを作成して計算し、月末にコンピュータに入力して行っていたそうです。その後、日々入力して医療費請求が可能になるように見直しをし、次第に機能を向上して行きました。一方、パソコンを導入して院内ネットワークを組み、院内情報のやり取りができるようにし、院長の構築された入院患者管理システムで入院患者さんの基本情報や保護者情報・請求先管理などを行ってきました。現在では、日常の診療を電子カルテで行い、これに連動しているレセプトコンピュータで入力すれば、ほぼ自動で請求できるようになり、さ

らに全ての施設で保険請求は、オンライン請求を実施しています。

このICT化が急速に進んだのが2009年からで、それまでの紙カルテをスキヤナして電子化する「シグナカルテ」の導入を皮切りに、9月には藍里病院にオーダーリング・電子カルテ「MOMACE」を導入しました。2010年に入り、CT・レントゲン・脳波計・心電図機器の入れ替えに伴い、簡易PACS「ラムウェブ」、脳波・心電図の電子化を行いました。

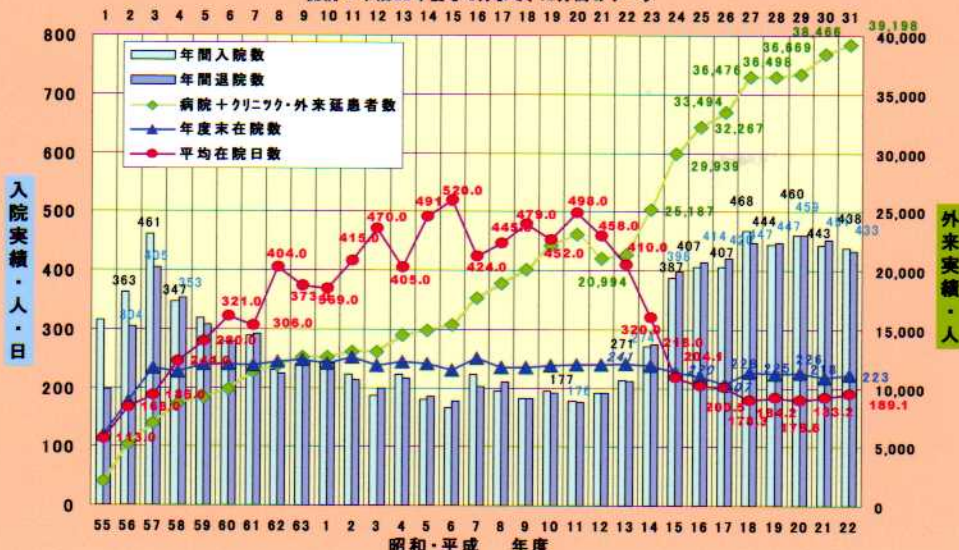
2010年6月には、あいざと山川クリニックに、7月には、あいざとパティオクリニックにオーダーリング・電子カルテ「MOMACE」を導入しました。病院・各クリニック間をST-NETの専用線をつなぎ、情報の共有化を図り、患者さんに安心・安全な医療サービスを提供できるようにするための一つのツールとしてICT化を進めております。

日々進化しているコンピュータ技術を利用・活用していくためには、どのような機能、情報が医療・診療技術の向上に利用可能かなど取捨選択していく必要があります。一方、今後は当法人で行ってきたネットワークサービスを近隣の病医院とも協力した連携体制にしたいと考え、クラウドコンピューティングサービスやASP(アプリケーションショ

ンサービスプロバイダ等、ICT技術を利用した、病診連携・地域連携に貢献するシステム構築につなげていきたいと考えています。

あいざと会・診療実績

開院～平成22年度も3月まで、12月間のデータ



あいざと・こころの医療福祉相談センター

H.23. 6. 1、開設予定 TEL:088-694-5151

あいざと・こころの医療福祉相談センター

平日 午後5時～午後10時 「精神科救急」等の時間外相談に対応

一般的精神科医療相談、受診前相談、受診後相談、退院後相談
暮らしの相談 等

相談室
(精神保健福祉士)
看護部師長

外来・訪問看護
急性期治療病棟
精神療養病棟
等

藍里病院

連絡・連携

電話

連携
協働

一般利用者

相談

多機能型地域活動支援センター

ことじ

(精神保健福祉士)

相談支援

精神科救急関係機関
(保健所・警察・消防等)
他の医療機関

利用

特定医療法人 **あいざと会**

特定医療法人 あいざと会



今年の藍里病院前道路沿いの芝桜

特定医療法人あいざと会は、公益性の高い医療及び福祉に取り組むことを基本方針としています。本年6月1日より「あいざと・こころの医療福祉相談センター」を開設します。これまで障害者自立支援法・相談支援事業を行ってきた地域活動支援センター「ことじ」と連携・協働し、精神科医療及び福祉の相談を受けます。藍里病院は輪番制の徳島県東部精神科医療圏救急システムに参加していますが、当番日以外にもできるだけ時間外等の診療要請に応じています。法人内には20名を越す精神保健福祉士が勤務していますので、今後は、精神保健福祉士と看護師長によって、当面は、月々金曜日・平日と輪番当番日に午後10時まで電話による「相談」を受け付けます。これによって時間外の「精神科救急」「生活の相談」などに対応するよう努めて参ります。

★ ★ ★
あいざと・こころの医療福祉相談センター
★ ★ ★
6月1日、開設
★ ★ ★

藍里病院

精神科・心療内科

精神科デイケア
精神科訪問看護
精神保健相談
禁煙外来

受付

(午前)月～金曜日 午前9:00～11:30
(午後)月～水・金 午後1:00～4:00

診療

(午前)月～金曜日 午前9:30～12:30
(午後)月～水・金 午後1:30～4:30

休診日

土曜日、日曜日、祝祭日、木曜午後

外来	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
新患	宇山 守本	中木	吉田 宇山	元木 井上	大学 山守本	大学 井上	宇山 藤本	(井上 中木 宇山 守本)	元木	守本	休診日	
再来	久保 吉田 城福	久保	山下 元木	宇山	中木 久保	藤本	山下 鬼原 吉田		守本 吉田	井上		
専門 外来	城福 児童・ 思春期		吉田: アルコール				藤本:老年 吉田:アルコール		吉田: アルコール			

(休日・時間外の診察を希望される方は、予めお電話下さい。)

〒771-1342

徳島県板野郡上板町佐藤塚字東288番地3

TEL 088-694-5151 FAX 088-694-5321

精神科急性期治療病棟 60床

精神科療養病棟 180床

交通案内

- 徳島バスご利用の場合
北岸廻り/徳島～鴨島線(一条経由)第十新田又は第十樋門下車→徒歩10分
- JR・タクシーご利用の場合
蔵本駅より一車で約15分 石井駅より一車で約12分
板野駅より一車で約10分
- 自動車道ご利用の場合
高松道板野ICより一約10分 徳島道藍住ICより一約7分

ホームページ

あいざと

検索



あいざとパティオクリニック

心療内科・精神科

受付: (午前)月～水・金・土 午前9:00～12:00
(午後)月～水・金 午後1:30～6:00

土曜日 午後1:30～5:30

診療: (午前)月～水・金・土 午前9:30～12:30
(午後)月～水・金 午後2:00～6:30

土曜日 午後2:00～6:00

休診日: 日曜日・祝祭日・木曜日

外来	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日	金曜日		土曜日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後		午前	午後	午前	午後
新・再	山下	元木	井上	中木	藤本 吉田	山下 吉田	休診日	藤本	藤本	山下	藤本1245 久保3
専門 外来	山下 スミス				吉田 アルコール		休診日	藤本	山下	うつ病 不眠	



交通案内

- バスご利用の場合
県立中央病院・大学病院
前下車→徒歩約3分
- JRご利用の場合
蔵本駅より→徒歩約3分
- 駐車場=蔵本駅前パーキングを利用して下さい
受診時は無料となります

〒770-0042徳島県徳島市蔵本町2丁目30番地1パティオくらもと2階
TEL 088-634-1881 FAX 088-634-1880

あいざと山川クリニック

心療内科・精神科

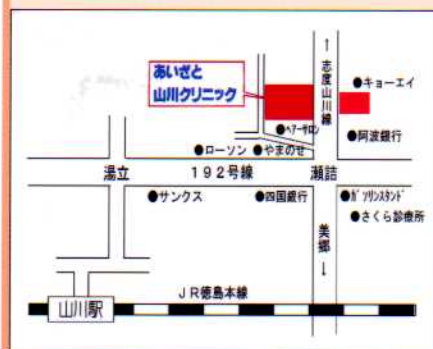
(精神科訪問看護、地域連携、精神保健相談実施)

受付: (午前)月～水・金・土 午前9:00～12:00

診療: (午前)月～水・金・土 午前9:30～12:30

休診日: 日曜日・祝祭日・木曜日

外来	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日	金曜日		土曜日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後		午前	午後	午前	午後
新・再	鬼原		久保		城福 (鬼原)		休診日	鬼原		鬼原135 中木 元木4	



交通案内

- JRご利用の場合
阿波山川駅より
→徒歩約8分
- 駐車場=クリニック内及び
道をへだてた表示場所

〒779-3403

徳島県吉野川市山川町前川200番地2

TEL 0883-42-8811 FAX 0883-42-8812